

## 四万十町文化的施設基本計画

### 目次（案）

<凡例>

黒字：既存部分

赤字：事務局追記部分

黄色：事務局コメント部分

はじめに

### 第1章 四万十町における文化的施設の基本方針

#### 1. 文化的施設の役割

##### (ア) 意義と理念

（そもそも、なぜこの施設が必要なのか、この時代にわざわざハコモノを整備することの意味、理念をあらためて示す。その際にデジタル情報社会で生き抜く術を学んでいくことの重要性はなにかを示す）。

文化的施設をいまあえて整備するのは、21世紀初頭を生きる四万十町民による50年後、100年後の町民に引き継ぐ地域の財産づくりであるからです。私たち四万十町民は各地域において先人が遺してきてくれた自然、文化、歴史、そして人々という大きな財産に拠って立ち、いまがあります。

時代の先行きが見通しにくいのは実はいつの時代も同様であり、人口減少や高齢化が叫ばれる現在だけが特別なわけではありません。現在を特別視せず、先人同様目の先の困難ばかりに目を奪われず、いまを生きる町民の活動に力を与え、その活動が育む未来を生み出していくために、いま文化的施設を設けます。過去からの財産を受け継ぎ、その財産に学びながら、同時に現在を豊かなものにする努力を惜しまず、その先につながる未来をよりいっそう豊かにするために、この文化的施設が必要です。

そして、文化的施設がこのような意義や理念を実現していくためには、以下の4つの役割を現実のものとして実現していく努力が求められます。

##### 【事務局コメント】

この点はあらためて委員会で集中的にご議論いただきたい点です。これまでの論点を踏まえると、議論の方向性としては、以下の「具体的な4つの役割」を一語に集約することが望ましいのではないかと考えます。

##### (イ) 具体的な4つの役割

###### 1 ひととまちをつなぐ、コミュニティの場

文化的施設は、図書館と美術館の機能を核とする施設ですが、ここに3つの要素としてコミュニティ機能を追加し、図書館、美術館、コミュニティの

3 要素が有機的に融合する場所を目指します。

2 子どもたちが自分の居場所を見つけられる場

文化的施設は、四万十町で生まれ育つ子どもたちが地域の大人に包み込まれ守られつつ、同時に一人ひとりの子どもが独立した存在として敬われ、自分の時間と空間を持てる場所を目指します。

3 最新の情報と技術を活用した多様な文化・芸術体験の場

文化的施設は、四万十町の地理的制約に関係なく、常に最新の情報と技術にふれて刺激を受けながら、新たな情報と技術を生み出し、地域間格差を感じない多様性に富む体験を味わえる場所を目指します。

4 想像／創造体験を通じた自己表現の場

文化的施設は、いまは世の中に存在しないモノやコトであっても、それを自由かつ大胆に想像し、現実の世界に創造していくことを通して、一人ひとりが自己表現を追求できる場所を目指します。

(ウ) 上位・関連計画との関係

以下の 3 つの上位計画・関連計画との連続性・一貫性を常に意識し、これらの計画に変更が生じた際は、本計画も随時見直しを行っていきます。

1 「第 2 次四万十町総合振興計画」

2 「四万十町まちづくり計画」

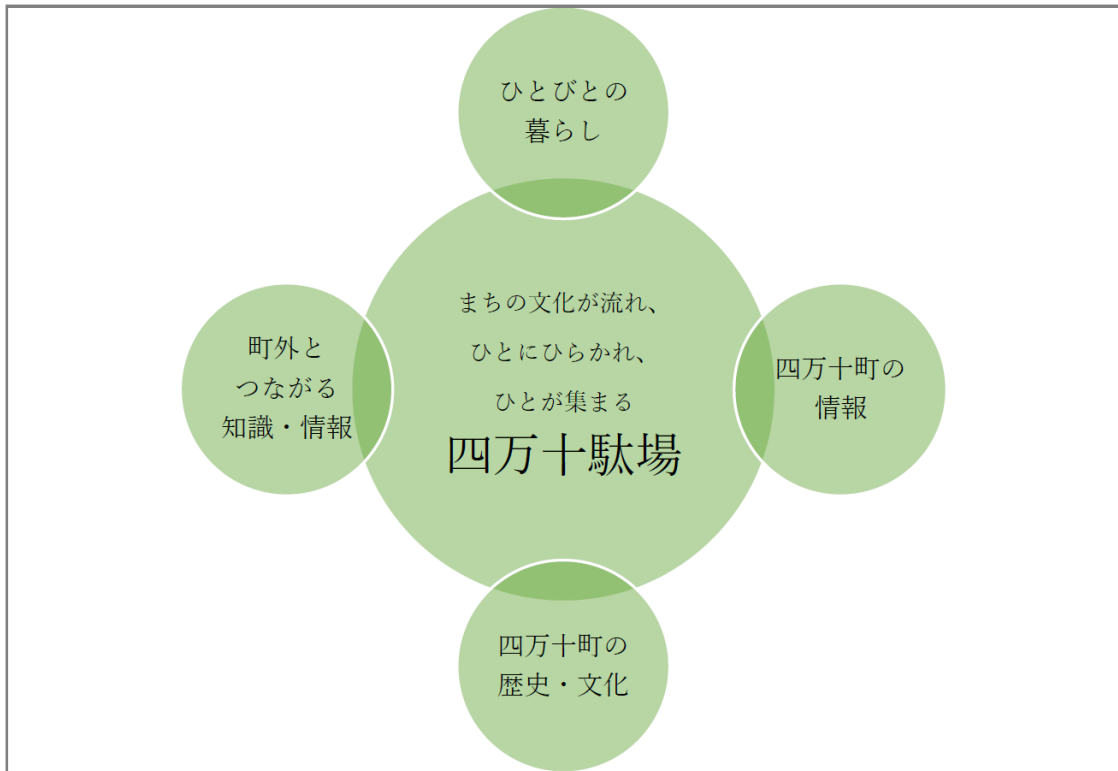
3 「四万十町市街地再生基本構想」

2. 新しい文化的施設のビジョン

「まちの文化が流れ、ひとにひらかれ、ひとが集まる四万十駄場」（基本構想からの転載）

「まちの文化が流れ、ひとにひらかれ、ひとが集まる四万十駄場」  
四万十川の豊かな自然に育まれた四万十町らしい文化は、四万十川の流れのように常に変わらず流れ、このまちに暮らす人々に受け継がれ、まちを巡っていきます。「駄場」とは ひらけた土地のことを表しますが、現在では、人が自然と集まり交流する場所の意味合いでも使われています。 四万十町の新しい文化的施設も同様に、様々なストーリーをもつ人々が融合し、入り混じっていくような場となっていくイメージを込めて、ビジョンを定めました。

四万十町の文化を四万十川の流れにたとえ、常に新しい知識や情報常に新しい知識や情報が滞ることなく流れ、人々の生活に浸透し、世代を超えて文化が循環していくことをイメージしています。これまでの四万十町の文化を守りながら、これからの四万十町の文化を生み出す場として、本来あるべき駄場のようにまちとひとにひらかれた施設となり、様々な情報が集まり、情報を発信していく場となることを目指します。この施設があることによって、四万十町の風土を受け継ぎ、四万十町に集う一人ひとりの生活が豊かになるビジョンを描いていきます。



3. ビジョンにつながるコンセプト（ミッション）

「人・自然・文化 ～やわらかい社会をつくる～」(基本構想からの転載)

4. コンセプト実現のためのアクションプラン

(ア) 図書館、美術館、コミュニティを核とする文化機能の融合

図書館、美術館、コミュニティの3つの機能の融合を図ります。そのために既存の図書館や美術館のあり方に敬意を払いつつ、同時に現在や未来において求められる新たな機能の開発や導入も重視します。

具体的には、読書、調査、研究、表現、創造、交流といった多面的な活動が個別に行われるのではなく、同じ時間・空間のなかに常に同居する融合を図ります。

これは四万十町の歴史や文化、芸術や郷土、そして自然をむやみに区別せず、地域資源として一体的に扱うことを意味します。また、図書館における資料、美術館における作品、博物館における文化財という区分にとらわれることなく、可能な限り一体的な地域資源としてとらえます。

このような融合的な取り組みは四万十町を次世代へと正確に伝えていくためには欠かせないものであり、この融合が実現しなければ、過去から続く現在の四万十町を未来へとつないでいくことは実現しません。

(イ) 広域なまち全体にひらかれ、各地域をつなぐ

各施設・機能との連動、全域サービスの可能性（十和地区分館の可能性）、配送等における情報技術の活用（例：ドローン）、人と人をつないでいく機能（相

談等)

町域全体に広がる文化的施設のサービス計画の検討

岩本寺や旧都築邸半平、お遍路道など町の重要な場所と連携する手法を検討する

(参考：中西繁先生の講演内での指摘)

「まちの歴史の文脈上、岩本寺と参道は重要な要素である」

「増える空き家、空き店舗問題を考えることが必要である」

町全体に根づく美術作品の展示文化を発展させ、多様なテーマでの展示を町内各地で開催する

例：パネル展「四万十町と幕末維新 草莽の志士たち」(平成 30 年 11 月 2 日～11 月 18 日)

展示を入り口にした研究や学びの場を企画・開催する

(ウ)施設をとともに支えるサポーターの存在

町民との協働、町民間の互助・共助、サポーター団体の設立と運営(先行事例の研究の必要性)

まちのイコールパートナーとなるサポーター制度を整備する

(エ)実空間と情報空間をつなぐ情報システム

Society5.0 を見据えた情報システム像の確立、デジタルデバイスの徹底的な活用(同時にデジタルデトックスの逆提案)

## 第2章 四万十町文化的施設の利用体験ストーリー

### 1. 世代

- (ア) 乳幼児と子育て世代
- (イ) 小学生・中学生
- (ウ) 高校生・大学生
- (エ) 実働世代
- (オ) 高齢者世代

### 2. 地域

- (ア) 窪川地域
- (イ) 大正地域
- (ウ) 十和地域

### 3. 関係

- (ア) 働く人（福祉、図書館、議員、商店主、経営者、行政職員、農業・林業等）
- (イ) 暮らす人
- (ウ) 訪れる人

「20XX年、この施設をあなたはどのように使いますか？」

※それぞれの人々が、文化的施設をどのように使っているのかを想像しまとめる

### 第3章 四万十町文化的施設のサービス目標・管理運営

1. 文化的施設のサービス目標
  - (ア)核となるサービス目標
    - 四万十町らしい文化目標
    - 情報技術リテラシーの涵養目標
  - (イ)施設間連携によるサービス目標
    - 町内の既存の文化・教育施設との連携方法の検討
    - 文化施設間の連携
    - 小中高との連携
    - 福祉施設、病院との連携
    - 商店、喫茶店等との連携
    - 観光施設、宿泊施設、道の駅との連携
  - (ウ)アウトリーチによるサービス目標
    - 窪川・大正・十和をつなぐユニバーサルサービス
2. 図書館と美術館が融合する文化的施設の望ましい管理運営方針
  - (ア)開館・閉館
  - (イ)資料の貸出・返却
    - 図書資料
    - 美術資料
    - 歴史資料
  - (ウ)作品（資料）の展示・閲覧
  - (エ)資料の保管・管理
3. 町民との協働による施設運営のあり方・スケジュール
4. 専門職員（司書、学芸員、その他）の育成・研修のあり方、スケジュール
5. 管理運営のあり方
  - 町民と協働する四万十町らしい文化的施設の運営方針の検討
  - 直営体制と委託体制（指定管理を含む）の比較検討
6. 人材確保・雇用方針のあり方、スケジュール
  - 町民と協働する四万十町らしい文化的施設の職員体制の検討

## 第4章 四万十町文化的施設の建設計画・スケジュール

### 1. 文化的施設の位置と規模

(ア) 中心市街地活性化を促すまちづくりを考慮した文化的施設の立地の検討

### 2. まちにひらかれた計画・設計の実現

### 3. 施設に必要な機能とあり方

### 4. 施設整備スケジュール